

下谷台福神

寿永寺は寛永7年建立で、寿永法尼が徳川二代将軍秀忠公の音提を拜うため、この地に庵室を営んだことに起源しています。また、放生会という動物慰霊の文を発願し、布袋尊を勧請して祀っています。幸福を授けるといふ布袋尊は、地域の人々に長く愛されています。

●東京都台東区三ノ輪1-2-15
●TEL 03-3873-2402



1 布袋尊
寿永寺

正宝院は享祿3年(1530)の創建といわれ、「飛不動」の通称で知られています。古くから病魔や災難を「飛ばして」くれると人々に信仰されていたと伝えられていますが、近年では航空安全の守護神として有名になり、空の安全や飛行道中安泰を祈願する参拝客が多く訪れます。

●東京都台東区電泉3-11-11
●TEL 03-3872-3311



2 恵比寿
飛不動神社

弁天院は、水谷(みずのや)伊勢守勝隆が寛永元年(1624)不忍池に弁財天を建立すると同時にその下屋敷であったこの地の部内の池にも弁財天を祀ったのが由来とされています。上野不忍池の弁財天を西方の夕日、東方の水谷を弁天院と称し、両者は姉妹弁財天とされています。

●東京都台東区電泉1-15-9
●TEL 03-3875-0478



3 毘沙門天
法昌寺

元プロボクサーでコメディアンのかご郎さん(1940~1985)の地蔵があることで有名です。無病息災を祈願した「たご八郎地蔵」は、「めいわくかけてありがとうたご八郎」と文字が刻まれており、発狂である由利徹さん、赤塚不二夫さん、山本晋也さんの名前も刻まれています。日蓮聖人御開眼の毘沙門様を奉安しています。

●東京都台東区下谷2-10-6
●TEL 03-3872-5891



4 大黒天
英信寺

鬼子母神は、インド仏教上の女神のひとりです。性質凶暴で子供を奪い取っては食べってしまう悪神だったため、釈迦は鬼子母神の末子を隠し、子を失う悲しみを実感させ心なやみました。以後、安産・子育ての守護神として信仰されるようになった。入谷鬼子母神では、子育ての善神になったという由来から「おん」の「鬼」の文字を使っています。

●東京都台東区下谷1-12-16
●TEL 03-3841-1800



5 考老人
元三島神社

元三島神社の起源は、弘安の役(蒙古襲来1281年)にさかのぼります。勇将河野通有は蒙古襲来で九州へ出兵、勝利して上野山へ帰り、愛媛県大三島の山根神社を上野の山の河野館に勧請したことが始まります。元三島神社は徳川幕府から社領を受けますが、御用地となったために上野から浅草へ移転し、現在の地に至ります。

●東京都台東区根岸1-7-11
●TEL 03-3873-4976

発行 台東区観光課 〒110-8615 東京都台東区東上野4-5-6
TEL 03-5246-1111 (代表)

http://www.city.taito.tokyo.jp

協力/下谷観光連盟 入谷鬼子母神

R100

台東区観光課 100%観光客向けサービス

8 根岸子規庵

財団法人 子規庵保存会
●台東区根岸2-5-11 ●03(3876)8218
http://www.shikian.or.jp/shikian0-0.htm

子規庵は、旧前田侯の下屋敷の御家人用二軒長屋といわれており、借家として子規没後も子規には母と妹が居住していた。前田家より子規庵維持保存会が土地建物を購入し、老朽化と関東大震災の影響により昭和元年に解体修理工事を行いました。昭和20年4月14日の空襲により子規庵は焼失、幸い昭和2年に完成した土蔵(子規文庫)は残り貴重な遺品が後世に残されました。現在の子規庵は昭和25年高弟等の努力で再建され、昭和27年東京都文化史蹟、昭和35年東京都文化財に指定されています。現在は、昭和3年に子規庵維持保存会が財団法人子規庵保存会として認可を受け、維持保存と公開運営をしています。

●入館料/500円 ●開館時間/午前10時30分~午後4時(昼休憩あり)
●休館日/月曜日 他(夏季・冬季休館期間あり)
●イベント/5月「若葉の子規庵」9月「秋瓜忌」11月「東京文化財ウィーク」12月「黒村忌」他

9 書道博物館

●台東区根岸2-10-4(JR常磐駅(北口)徒歩5分)
●03(3872)2645
http://www.taitocy.net/taito/shodou

書道博物館は、洋画家であり書家でもあった中村不折(寛政2年~昭和18年)により、昭和11年に開館されました。博物館には、亀甲獣骨文、青銅器、石碑、鏡蓋、拓本、経巻文書など、不折が書道研究のために収集した、中国及び日本の書道に関する古美術品、考古出土品など、重要文化財12点、重要美術品5点を含む約16,000点が収蔵されています。

●入館料/一般500円(300円) 小・中・高校生250円(150円)
※()内は、20人以上の団体料金
●開館時間/午前9時30分~午後4時30分
●休館日/月曜日(祝日と重なる場合は翌日)
12月29日~1月3日/特別整理期間等

10 わきし三平堂

●台東区根岸2-10-12
●03(3873)0760
http://www.sanpeido.com

わきし三平堂は、林家三平の笑いの精神を永遠に生かし続ける場所です。落語家の名門に生まれながら、それまでの古典落語に飽きたらず、落語の殻を大きく破った三平落語を創り上げました。その自由闊達な話芸は、寄席だけにとどまらず、あらゆるメディアに進出し、神風タレント第一号、昭和の爆笑王として、いつまでも日本人の心にとこっています。

●入館料/600円 ●開館時間/午前10時~午後5時
●開堂日/「ドームイマゼン」の土曜日・水曜日・日曜日のみ開堂
※毎月第3土曜日に三平落語会を開催(午後5時30分~1,000円)

11 硯の資料室

●台東区根岸3-3-18-201
●03(3876)1563, 03(3874)0080

中国では「硯は文人の魂」といわれ、愛用されてきました。この中国硯の研究に力を注ぐ楳文夫氏が蒐集した硯・石印・水滴等を展示したのが「硯の資料室」です。中国四大名硯といわれる硯など300点以上が展示され、手にとって観賞することができます。硯の蒐集は、中国の文化、歴史史としては東洋の精神美の研究であるといえます。東洋文化の原点に触れ、忘れかけていた何かを思い出すことでしょ。

尚、入館は無料ですが事前予約が必要です。予め電話にてご連絡ください。

12 待行の松(西藏院)

●台東区根岸4-9-5(根岸3-12-38)
●03(3872)0491

根岸4丁目、江戸名所図会や広重の錦絵にも描かれ、江戸名松の一つに数えられた御行の松があります。この松は、樋口一葉の作品「等の子」や子規の俳句にもなりました。初代の松は樹齢350年を経た後枯れてしまい、現在は3代目の松が植えられています。

13 石福荷神社(下根岸福荷神社)

●台東区根岸4-16-17

石福荷神社は、正式には「下根岸福荷神社」といいます。貞享4年(1687)に創建され、御祭神は直福神命(うがのたまのみこと)です。子供の夜泣きにご利益があり、また出世福荷として信仰を集めています。神社の宝物として、根岸に庵画「雨華圖」を構えていた酒井掬一が文化10年に奉納した旗幟が収蔵されています。

14 三島神社(雷井戸)

●台東区下谷3-7-5
●03(3873)0172

境内社には江戸時代に勧請されたといえられる火除稲荷が火難除、商売繁盛の神様として鎮座しています。また、井戸に雷の子どもを閉じこめたという逸話もあります。

15 了源院(火除観音)

●台東区下谷3-6-6
●03(3873)0318

正保元年(1644)創立、ご本尊に「火除観世音菩薩」を安置。土地の人々は「火除観音」と唱え、またこのあたりの地名も呼ばれたそうです。「火除」の由来ですが、鎌倉の建長寺の開祖の僧が唐で授かったこの観音様を拜んでいたある日、夢で寺の火事を知り観音様を念じながら手で清水をすくって火に注ぐと、たちまち大雨となり火事は鎮火しました。その後のいろいろなご縁で大伝になり、元禄元年に徳川家より敷地を賜り、現在の了源院の基礎となりました。

16 小野照崎神社

●台東区下谷2-13-14
●03(3872)5514

創建はかなり古く、社伝によると仁壽2年(852)で、現社殿は慶応2年(1866)に造営されたものです。御祭神は足利学校の創始者であり、平安初期の学者、詩人としても有名な小野篁(おののたけむら)。

17 鷲神社(はもとりじんじ)

●台東区千草3-18-7
●03(3876)1515

「おとりさま」の愛称で知られ、毎年11月の酉の日に境内で熊手を売る店が立ち並び「酉の市」が有名です。ここで売られる熊手御守は一般に「かつこめ」「はこめ」といわれ、福運や財をかき込むという縁起から開運・殖産・商売繁盛のお守りとされます。この酉の市は、樋口一葉の代表作「たけくらべ」の境内にも登場します。

18 一葉記念館

●台東区電泉3-18-4
●03(3873)0004
http://www.taitocy.net/taito/ichiyo

一葉記念館には、一葉自筆の「たけくらべ」草稿、小説の節半井桃水(なからいとうすい)宛の書翰、電泉寺町に荒物・駄菓子店を開いた時の仕入帳など重要な資料、文献を展示し、また、一葉が住んでいた頃の電泉寺町の家並風景や一葉旧宅の模型、一葉が使用した文机等明治期の下町の文化、風俗資料も収蔵されています。

●入館料/一般300円(200円) 小・中学生100円(50円) ※()内は、20人以上の団体料金
●開館時間/午前9時~午後4時30分
●休館日/月曜日(祝日と重なる場合は翌日) 年末年始/特別整理期間等

19 示久寺(目黄不動)

●台東区三ノ輪2-14-5
●03(3801)6328

寛永年間の中旬、三代将軍家光が天海大僧正の具申をうけ江戸の鎮護と天下泰平を祈願して、江戸市中の周田五つの角の不動尊を選んで割り当てた「江戸五色不動(目白、目赤、目黒、目青、目黄)」のひとつ目黄不動です。

20 薬王寺(背向き地蔵)

●台東区根岸5-18-5
●03(3873)9686

境内の正面奥に背面(うしろむき)地蔵尊があります。最初は奥州へ向かう街道にありましたが、明治年間(1764-72)に新街道ができ、その新街道からは後ろ向きに見えたことから、こう呼ばれるようになりました。

入谷鬼子母神と朝顔まつり

江戸時代の文人、大田蜀山人(おおたしよくさんじん)の「恐れ入谷の鬼子母神」という洒落言葉からも分かる通り、入谷鬼子母神は、昔から多くの人々に親しまれてきました。

この入谷鬼子母神の境内とその前を走る言問(ことい)通りでは、毎年7月6日から8日までの3日間、「入谷朝顔まつり」が催され、早朝から夜遅くまで、多くの人々で賑わいます。

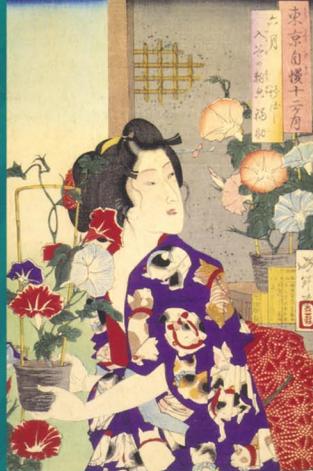
入谷の朝顔が有名になったのは、明治に入ってからのことで、十数軒の植木屋が、それぞれ数百坪もある広大な土地で朝顔を栽培したのが始まりです。当時、この辺りは入谷田圃と呼ばれ、朝顔や蓮の栽培に適した土地だったので。

植木屋が、毎年大輪の朝顔や変わり種の朝顔を咲かせているのが評判となり、朝早くから見物客が集まるようになりましたが、入谷が発展するにつれ、植木屋は郊外へと去って行き、大正2年、ついに入谷の朝顔は途絶えてしまいました。

しかし、昭和23年、地元有志の方々の努力により再び朝顔の市が立つようになり、今日に至るまで「入谷朝顔まつり」は下町情緒豊かな初夏の行事として、広く人々に愛され続けています。※平成20年に限り、7月18日(金)から20日(日)に実施されます。



其の十



月岡芳年 画 (東京自慢十二月 六月 入谷の朝顔 柳はし補助)

よしもと文化センター